

## 報告

## ハンドバイクで北海道を走ろう！

WILD GATE 増子 重紀

## 1. 出会い

子供の頃、自転車に乗れるようになった時に、自分の行動範囲がとても広くなって、「自転車なら、自分の力でどこまでも行ける。」と思っていた。

そして月日が経ち、自分が障がい者となって、リハビリ目的で紹介されたハンドバイクに初めて乗った時に、それまでいろいろなスポーツをしても満足に続かなかった自分が、「ああ、なんて楽しいんだ。これなら、もっと自由になれる。」そんな子供時代の頃に描いた、純粋な気持ちを思い起こさせてくれたのもこのハンドバイクだ。

## 2. 北海道でポタリング

自転車にモーター付き、そして車に乗っても、誰でも一度は走ってみたいと憧れる場所、北海道。いつしか自家用車にハンドバイクを積み込み、何



写真1 札幌市時計台にて

WILD GATE

〒 962-0402 福島県須賀川市仁井田字館内 225

度となく北海道を訪れるようになっていた。はじめは札幌市内を中心に（写真1）、小樽などをアダプタータイプのハンドバイクでポタリング（自転車で散歩することの和製英語）。市街地の道路状況は、本土と違い、冬の除雪対策で道幅も広く、段差も少ないので走りやすい。アダプタータイプのハンドバイクにとってのポタリングは、かなり有利ではないだろうか（写真2）。



写真2 小樽運河をゆったり走る

昔、タバコや車のCMで使用された、美瑛の丘でのツーリング。美瑛の丘はアップダウンがあり、アダプタータイプのハンドバイクで走るには、それなりの覚悟が求められるが、行けない場所でもない（写真3）。



写真3 美瑛の丘を、おもしろ苦しく走る

### 3. 帯広での出会い

北海道の広大な大地を、本格的にツーリングしたいと思い立ったのが今年の春。しかしいきなり行っても困難なので、ならば下見と現地の情報収集も悪くはないのではないかと思いつき、早速ハンドバイク輸入代理店の（株）テレウスの木戸司社長に依頼し、帯広在住の福祉車両のプロショップ「イフ」の内藤憲孝氏を紹介して頂いた。

5月の連休にもかかわらず、内藤氏の手配により、オフ会を兼ねて、帯広を中心とした北海道のハンドバイク仲間と出会うことになる（写真4）。



写真4 北愛国交流広場にて

当初は現地のサイクリングロードを使ってのツーリングを予定して頂いたのだが、あいにくの雨のため急遽予定を変更し、北愛国交流広場に場所を移して、ハンドバイクのポジションやセッティング、操作方法、そしてトレーニング方法などの情報交換の場となった（写真5）。この日は少人数ではあったが、初対面にもかかわらず、北海道の風土なのか、全員が気さくな方々で、それを取り巻く人々のネットワークもすばらしい。北海道でのハンドバイクユーザーは、間違い



写真5 ポジションとセッティング

なくこれから増えて行く予感がした。

### 4. 三国峠

今回の帯広滞在の最終日に、坂村堅二氏のご厚意により、三国峠のツーリング（ほぼダウンヒルに近い峠の下り）に行くことができた。



写真6 残雪の士幌町三国峠

三国峠頂上付近は、5月であってもさすが北海道、雪だった（写真6）。滑る路面に気をつけながらどんどん下ると、大樹海のパノラマは冬から春の景色へと変化していく（写真7）。これが北海道ツーリングの醍醐味なのか！



写真7 ダウンヒルは最高！

### 5. まとめ

紙面の都合上、伝えきれないものが多いが、感じたのは、ごちゃごちゃとした本土のサイクリングロードを走るより、広大などこまでも真っ直ぐに続くこの道路を一度でも走ると、いつしか解放された自由を感じてしまうだろう。とにかく走れる場所がどこにでもある、まさにハンドバイク天国北海道。次は装備を揃えて、本格的なツーリングに挑戦かな。